

令和3年度 順天寮事業報告

生活保護受給者で居宅生活をおくることが困難な人が、安心して暮らしながら自立に向けた訓練を行う施設である順天寮では、中長期計画の見直しを図り、令和3年度は主に以下の取り組みを行いました。

- (1) 限られた資源（人・施設・金）の中での最適な支援
 - ① 事業を常に収支ベースで検討する
 - ② 業務の標準化、合理化のために、情報システムの導入
 - ③ 改築に向けた調査・研究
- (2) 課題解決力の向上
 - ① 課題に対するカンファレンスの持ち方の改善
 - ② 個別支援計画の改善
- (3) 地域移行事業の拡大
 - ① 障害福祉サービス、生活困窮事業等の収支ベースでの検討
- (4) コロナ対策
 - ① ワクチン接種
 - ② PCR検査・抗原検査
 - ③ 県セーフティネット補助金による対策備品等の購入

昨年に引き続きコロナ渦にあって、利用者の楽しみである行事等の中止や縮小する中で、全職員が知恵を出し、工夫しながら生活の場としての機能を維持し、1年間一人の感染者もなく過ごすことができました。

経営的には、措置費収入では加算による収入減等により前年比約400万円の減収となりましたが、IT導入補助金、コロナ関連の補助金等の収入もあり事業活動収入の合計額は2億5600万円となりました。

施設整備関係では見守りシステムの導入、体育館照明のLED化工事等を行いました。

今年度も1000万円の施設整備積立金を行ったうえで、880万円の当期資金収支差額を計上することができました。

引き続き、組織・施設の機能強化を図りながら、地域福祉の向上に努めてまいります。

令和3年度 指定共同生活援助事業所事業報告

グループホーム事業は、救護施設順天寮の地域移行事業として、日中は主に順天寮の通所事業を利用し、夜間はアパートタイプの個室で居住し共有スペースで世話人が作った夕食を提供している障害福祉サービスで平成29年8月より定員4名から開始し、昨年度に「ハレルヤ」を開所し現在2棟8名定員体制で運営しています。

年間を通じて7名の利用を継続し、当初予算の99.6%を達成することができ、事業活動資金収支差額は、昨年の144万円から385万円に順調に推移しております。

今年度より世話人会議を定期的で開催し、研修や意見交換を図りながらより良いサービスが継続できるように取り組みました。

平成29年度の開設に当たり順天寮会計から繰り入れた300万円に対して毎年50万円ずつ繰り戻しておりましたが、残金150万円全額を今年度繰り戻しました。また、順天寮との兼務で行っている職員の人件費負担分として100万円を負担したうえで、135万円の当期資金収支差額を計上することが出来ました。

引き続き、順天寮の地域移行支援事業の拡大と地域ニーズに沿えるように努めてまいります。